

## 2016 年度実践総合農学会 シンポジウム開催案内

- ◆日 時：2016 年 7 月 9 日(土)13:00～17:30 (受付 12:30～)
- ◆場 所：東京農業大学 農大アカデミアセンター地下1階 横井講堂
- ◆主 催：実践総合農学会

テーマ:新しい食材を求めて—新作物・新品種の科学—

### ◆ねらい

日本再興戦略による農林水産業の成長産業化をめざす攻めの農政、TPP（環太平洋パートナーシップ）協定の大筋合意、和食のユネスコ無形文化遺産への登録など、食と農をめぐる動きが目まぐるしい。

こうした状況下で、国内農業では、6次産業化の推進、輸出の拡大、低迷する消費の拡大、加工・業務用需要に対する国産シェアの奪還、生産コストの低減や生産の安定化等が課題となっており、そうした課題解決のためには、新たな品種や技術による「強み」のある農畜産物づくりが必要不可欠であると指摘されている（農林水産省「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」）。

強みのある農畜産物づくりには、品種・ブランドなど価値を生み出せる農畜産物、加工・業務用ニーズにあった規格・品質の低コスト農畜産物、輸出先で選ばれるオンリーワンの強みを持った農畜産物、消費を喚起する新たな農畜産物、所得確保に直結する多収や安定生産が可能な新たな農畜産物を開発・普及していくことが必要であろう。

食や農をめぐる著しい状況変化に対応しつつ、国内農業を振興し、強みのある産地を形成していくためには、戦略的に育種から産地化、あるいは知財保護までの支援を行うとともに、一方ではマーケットインの発想に基づき、消費や実需者の新たな食材へのニーズを踏まえた新作物・新品種の開発や普及が求められる。

こうした問題意識に基づき、本シンポジウムでは、基調講演として料理研究家の堀江ひろ子先生から、豊かな食生活を築くために求められる料理や食材についての考え方を広い視野から開示していただき、新作物や新品種が開発がターゲットとすべき食材や農産物のイメージをふくらませる。それを踏まえて、そうした食を支えるための新作物・新品種が開発や産地化について最新の研究を進めている4名の方々に報告をいただき、その現状と課題を明確化しつつ、今後のあり方について認識と理解を深めるとともに、その分野での新たな知見が得られることを期待するものである。

## ◆プログラム

- 13:00～13:05 学会長挨拶：実践総合農学会長 三輪 睿太郎
- 13:05～13:10 開催校挨拶：東京農業大学長 高野 克己
- 13:10～13:55 基調講演「豊かな食・豊かな家庭」 料理研究家 堀江 ひろ子
- 13:55～14:15 休憩
- 14:15～ シンポジウム【新しい食材を求めて－新作物・新品種の科学－】
- 14:15～14:25 座長解題 東京農業大学 総合研究所 教授 佐々木 卓治
- 14:25～14:55 第1報告「魅力の新作物・新品種－すすむ研究開発」  
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構  
次世代作物開発研究センター 大潟 直樹
- 14:55～15:25 第2報告「商品作物としてのヤマイモのポテンシャルと課題」  
東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科  
助教 パチャキル バビル
- 15:25～15:55 第3報告「キノコの機能性と商品化」  
東京農業大学 地域環境科学部 助教 宮澤 紀子
- 15:55～16:25 第4報告「新作物・新品種のブランド戦略  
－グローバルフードバリューチェーンの構築を目指して－」  
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構  
食農ビジネス推進センター 後藤 一寿
- 16:25～16:45 休憩
- 16:45～17:30 総合討議
- 18:00～19:30 懇親会（東京農業大学レストランすずしろ 懇親会費：3,000円）